

令和3年度「山形学」講座第5回 実施報告書(HP版)

- ◆開催日時：10月16日(土) 13:30～16:20
- ◆会場：遊学館3階第1研修室
- ◆テーマ：「環境異変に立ち向かう知恵～山～」
- ◆内容：講師：八木浩司氏(山形大学教授)
講師：菊地仁氏(山形大学名誉教授)
コーディネーター：松尾剛次氏(「山形学」企画委員)

◆プログラム

13 : 30	開講、コーディネーター趣旨、進行、講師紹介
13 : 35	講話1 八木浩司氏
14 : 25	休憩(10分間)・質問票回収(会場・オンライン)
14 : 35	講話2 菊地仁氏
15 : 25	休憩(10分間)・質問票回収(会場・オンライン)
15 : 35	質疑応答
15 : 55	菊地コーディネーターまとめ
16 : 00	講座終了
16 : 05	スライドショー上映(現地下見)
16 : 08	閉講式
16 : 20	閉会

- ◆参加者数：会場34名、オンライン9名

- ◆主催：公益財団法人山形県生涯学習文化財団 後援：山形県教育委員会

◆当日の様子

八木氏は地震発生のメカニズムや地層の調査方法等の説明の後、県内に存在する各断層帯の成り立ちと断層地形について詳しく解説してくれました。具体例が多く、非常に分かりやすい図表で理解が深まりました。見慣れた風景が実は地震活動によって形成されたこと、地形から断層の見つけ方を学ぶことができ受講生は興味深く熱心に傾聴していました。特に山形盆地断層帯の地震発生確率について、「今後30年以内の発生確率は8%」と20年前に発表されていること。それは全国で8番目に高い確率であるとし、既に活動時期に差し掛かっており直下型地震の発生は予断を許さない状況にあると語られました。山形に迫りくる地震に皆気を引き締めていました。

菊地氏は、県内各地に残る「蹴裂(けさき)伝説」の数々を紹介してくれました。蹴裂伝説とは、神や英雄が溪谷や湖沼の一方を蹴裂き、もしくは切り開いて悪水を流してやることを説く型の伝説のことで全国にありますが、山形県の特徴は、水を司る大蛇や竜が登場し、洪水等自然災害・天変地異が発生した際に、まずは神話的な動物が対峙した後に、やっと人間が登場し人間の世界が始まるところ。山形では自然と人間の対立という形にならない理由は、自然への畏敬の念があるのではないかと解説してくださいました。民話の面白さと奥深さを知り、日本の文化に興味関心を高めることができました。

地殻変動を活断層と伝説というジャンルの異なる分野から読み解いた大変有意義な講座となりました。

参加者の声

- ・山形県内の地史や活断層・伏在断層について新知識を得ることができて、大変参考になりました。提示された図表も興味を引きました。
- ・活断層について写真で分かりやすく解説してくださった。樽石付近を自転車で走った時、なんでこんな地形になっているの不思議に思ったが講義を聞いて目から鱗でした。
- ・いずれも非常に面白くわかりやすく、地域にはっきり根ざした内容が良かったです。
- ・蹴裂伝説が天変地異に向き合ってきた先祖の伝えようとした思いから生まれたこと、自然への畏れを抱いて生きてきた祈りのようなものを感じることができた。古事記にあるような人間対自然の戦いとは違うというのは面白い視点。
- ・菊地先生の「山形には大自然への畏敬の念があるのでは・・・」のお話同感です。大自然が厳しいからこそ、草木塔や各種民間説話で自然への感謝、観音様やお不動様を祀って共生を考えてきたのではないかと思います。
- ・実際の地震の活断層のお話や地形に纏わる伝説がよくわかり、大変興味深く満足できました。
- ・生涯教育のひとつのあり方として山形学講座は大変貴重な存在だと思っています。講師のみなさんのお話も大変興味深いです。
- ・貴重な素晴らしい講座をありがとうございました。素晴らしい市民講座だと思いますので、今後も末永く発展していただきたいです。



松尾コーディネーター



八木講師



菊地講師



会場の様子



閉講式 (修了証書授与)



修了生代表挨拶



閉講式 企画委員長挨拶